

教 科	受験番号
保健体育	

1 学習指導要領及び解説に関する次の(1)～(10)の各設問に答えよ。

(1) 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」における、「総説」の「保健体育科改訂の趣旨及び要点」の中から抜粋した次の文章について、(A)～(E)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○平成21年改定の学習指導要領の課題

習得した(A)を活用して課題解決することや、学習したことを(B)等に課題があること、運動する子供とそうでない子供の(C)傾向が見られること、子供の体力について、低下傾向には歯止めが掛かっているものの、体力水準が高かった(D)ごろと比較すると、依然として低い状況が見られることなどの指摘がある。また、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であり、(E)に伴う新たな健康課題に対応した教育が必要との指摘がある。

- ① (A) 知識や技能 (B) 実践で表現すること
(C) 二極化 (D) 昭和30年 (E) 社会の変化
- ② (A) 学力や体力 (B) 実践で表現すること
(C) 二極化 (D) 昭和30年 (E) 学力の低下
- ③ (A) 知識や技能 (B) 相手に分かりやすく伝えること
(C) 二極化 (D) 昭和60年 (E) 社会の変化
- ④ (A) 学力や体力 (B) 相手に分かりやすく伝えること
(C) 顕在化 (D) 昭和60年 (E) 体力の変化
- ⑤ (A) 知識や技能 (B) 実践で表現すること
(C) 顕在化 (D) 昭和30年 (E) 学力の低下

- (2) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」における，教科「保健体育」の各科目「体育」の中の「目標」について，(A)～(E)に当てはまる正しい語句の組合せを，①～⑤の中から一つ選べ。

体育の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，(A)な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，生涯にわたって(B)を継続するとともに，自己の状況に応じて(C)の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の(A)な実践を通して，運動の楽しさや喜びを深く味わい，生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため，運動の多様性や(C)の必要性について理解するとともに，それらの(D)を身に付けるようにする。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し，(A)な解決に向けて思考し判断するとともに，自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して，公正に取り組む，互いに協力する，自己の責任を果たす，(E)する，一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに，健康・安全を確保して，生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

- | | | | |
|---|-----------------------|--------------------------|--------|
| ① | (A) 合理的，計画的
(D) 技能 | (B) 豊かなスポーツライフ
(E) 参画 | (C) 体力 |
| ② | (A) 合理的，効果的
(D) 知識 | (B) 健康なスポーツライフ
(E) 企画 | (C) 技能 |
| ③ | (A) 効果的，効率的
(D) 知識 | (B) 豊かな社会生活
(E) 企画 | (C) 体力 |
| ④ | (A) 効果的，計画的
(D) 技能 | (B) 健康な社会生活
(E) 参画 | (C) 技能 |
| ⑤ | (A) 合理的，効率的
(D) 知識 | (B) 豊かなスポーツライフ
(E) 計画 | (C) 体力 |

- (3) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における、「総説」の「保健体育科改訂の趣旨及び要点」の中から抜粋した次の文章について、(A)～(E)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○改訂の基本的な考え方

体育科，保健体育科における(A)については，これまでも心と体を一体としてとらえ，自己の(B)についての課題の解決に向け，積極的・自主的・主体的に学習することや，仲間と(C)して課題を解決する学習等を重視してきた。これらを引き続き重視するとともに，体育科，保健体育科で育成を目指す『知識・技能』，『(D)』，『学びに向かう力・人間性等』の三つの資質・能力を確実に身に付けるために，その(E)を重視した(A)を工夫する必要がある。

- | | | | |
|---|------------------|-----------|-----------|
| ① | (A) 単元計画 | (B) 運動や健康 | (C) 楽しく協調 |
| | (D) 計画力・判断力・表現力等 | (E) 系統性 | |
| ② | (A) 学習過程 | (B) 健康や進路 | (C) 対話し協力 |
| | (D) 思考力・判断力・実行力等 | (E) 系統性 | |
| ③ | (A) 単元計画 | (B) 健康や進路 | (C) 対話し協力 |
| | (D) 行動力・判断力・表現力等 | (E) 関係性 | |
| ④ | (A) 学習過程 | (B) 体力や健康 | (C) 楽しく協調 |
| | (D) 思考力・判断力・実行力等 | (E) 系統性 | |
| ⑤ | (A) 学習過程 | (B) 運動や健康 | (C) 対話し協力 |
| | (D) 思考力・判断力・表現力等 | (E) 関係性 | |

- (4) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における、「総説」の「保健体育科改訂の趣旨及び要点」の中から抜粋した次の文章について、(A)～(E)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○ 改善の具体的事項

「体育」の知識については、言葉や文章など明確な形で表出することが可能な(A)だけでなく、勘や直感、経験に基づく知恵などの(B)を含む概念であり、(C)、思考力、運動の技能などの源となるものである。また、体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識を理解することにとどまらず、運動の実践及び生涯スポーツにつながる概念や(D)などの(E)な知識等の定着を図ることが重要である。その際、動きの獲得を通して一層知識の大切さを実感できるようにすることが必要である。

- | | | | |
|---|---------|---------|--------|
| ① | (A) 身体知 | (B) 形式知 | (C) 意欲 |
| | (D) 理念 | (E) 専門的 | |
| ② | (A) 形式知 | (B) 暗黙知 | (C) 意欲 |
| | (D) 法則 | (E) 汎用的 | |
| ③ | (A) 形式知 | (B) 経験知 | (C) 体力 |
| | (D) 法則 | (E) 専門的 | |
| ④ | (A) 身体知 | (B) 経験知 | (C) 体力 |
| | (D) 理念 | (E) 汎用的 | |
| ⑤ | (A) 形式知 | (B) 暗黙知 | (C) 学力 |
| | (D) 理念 | (E) 専門的 | |

- (5) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における、「総説」の「保健体育科改訂の趣旨及び要点」の中から抜粋した次の文について、(A)、(B)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○ 「保健」 内容の構成

内容のまとまりについては、個人及び社会生活における健康課題を解決することを重視する観点から、従前の「現代社会と健康」、「生涯を通じる健康」及び「社会生活と健康」の3項目を「現代社会と健康」、「(A)」、「生涯を通じる健康」及び「(B)」の4項目とした。

- ① (A) 安全な社会生活 (B) 健康を支える環境づくり
- ② (A) 傷害の防止 (B) 健康を支える社会生活
- ③ (A) 安全な社会生活 (B) 健康な生活と疾病の予防
- ④ (A) 傷害の防止 (B) 健康を支える環境づくり
- ⑤ (A) 安全な社会生活 (B) 健康を支える社会生活

(6) 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」における、「総説」の「保健体育科改訂の趣旨及び要点」の中から抜粋した次の文章について、(A)～(C)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○ 学び直しの充実

高等学校においては、社会で生きていくために必要となる力を共通して身に付ける「(A)」の観点と、一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばす「(B)」の観点を軸としつつ、育成を目指す資質・能力を明確にし、それらを育てていくことが大切である。

特に、(A)の観点からは、(C)段階での学習内容の確実な定着を図ることが、高等学校保健体育科で育成を目指す資質・能力を身に付ける視点からも重要である。そのため、入学年次においては、引き続き中学校第3学年の内容を取り上げ、解説において、入学年次とその次の年次以降の学習のねらいや内容をそれぞれ具体的に示すこととした。

- ① (A) 必要性の確保 (B) 伸長性の確保 (C) 義務教育
- ② (A) 共通性の確保 (B) 多様性の確保 (C) 入学初期
- ③ (A) 必要性の確保 (B) 多様性への対応 (C) 義務教育
- ④ (A) 共通性の確保 (B) 多様性への対応 (C) 義務教育
- ⑤ (A) 必要性の確保 (B) 伸長性の確保 (C) 入学初期

(7) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における、「保健体育科の目標及び内容」に関する（A）～（E）の各文について、正しい文章の組合せを、①～⑨の中から一つ選べ。

(A) 体育分野は、運動に関する領域である「体づくり運動」、「器械運動」、「陸上競技」、「水泳」、「球技」、「武道」及び「ダンス」の七つの領域と、知識に関する領域である「体育理論」の計八つの領域で構成されている。

(B) 保健分野は「健康な生活と疾病の予防」、「心身の機能の発達と心の健康」、「傷害の防止」及び「生涯を通じる健康」の四つの内容で構成されている。

(C) 「体育」は、「各年次継続して履修できるようにし、各年次の単位数はなるべく均分して配当するものとする」と示されている。

(D) 保健分野の内容については、第1学年及び第2学年と第3学年に分けて示されている。

(E) 体育分野の「水泳」は、クロール、平泳ぎ、安全確保につながる運動などから構成されている。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ① (A) と (B) | ② (A) と (C) | ③ (A) と (D) |
| ④ (A) と (E) | ⑤ (B) と (C) | ⑥ (B) と (D) |
| ⑦ (B) と (E) | ⑧ (C) と (E) | ⑨ (D) と (E) |

(8) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における、「保健体育科の目標及び内容」の「各科目の目標及び内容」の「学びに向かう力、人間性等」の「共通事項」の中から抜粋した次の文章について、（A）～（C）に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

各領域の入学年次に「（A）に取り組む」ことを、その次の年次以降は、「（B）に取り組む」ことを示している。これは、中学校第1学年及び第2学年において示した「（C）に取り組む」こと、第3学年において示した「（A）に取り組む」ことを踏まえ、入学年次は、引き続き、「（A）に取り組む」こと、その次の年次以降においては、「（B）に取り組む」ことを高等学校卒業までの情意面の目標として示したものである。

- | | | | |
|---|---------|---------|---------|
| ① | (A) 主体的 | (B) 自主的 | (C) 積極的 |
| ② | (A) 積極的 | (B) 主体的 | (C) 自主的 |
| ③ | (A) 積極的 | (B) 自主的 | (C) 主体的 |
| ④ | (A) 自主的 | (B) 積極的 | (C) 主体的 |
| ⑤ | (A) 自主的 | (B) 主体的 | (C) 積極的 |

(9) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における、「保健体育科の目標及び内容」の「教科の目標及び内容」の中から抜粋した次の文章について、(A)～(E)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○ 体育の見方・考え方について

「運動やスポーツを，その(A)に着目して，楽しさや喜びとともに(B)の向上に果たす役割の観点から捉え，自己の適性等に応じた『する・みる・(C)』の多様な関わり方と関連付けること」

○ 保健の見方・考え方について

「個人及び社会生活における課題や(D)を，健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え，疾病等のリスクの軽減や(E)の向上，健康を支える環境づくりと関連付けること」

- | | | | |
|---|----------------------|--------------------|-------------|
| ① | (A) 歴史やルール
(D) 情報 | (B) 技能
(E) 食事の質 | (C) 関わる・調べる |
| ② | (A) 歴史やルール
(D) 成果 | (B) 体力
(E) 健康の質 | (C) 支える・調べる |
| ③ | (A) 価値や特性
(D) 情報 | (B) 体力
(E) 生活の質 | (C) 支える・知る |
| ④ | (A) 価値や特性
(D) 成果 | (B) 体力
(E) 食事の質 | (C) 関わる・調べる |
| ⑤ | (A) 価値や特性
(D) 成果 | (B) 技能
(E) 生活の質 | (C) 支える・知る |

- (10) 「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」における、「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」の「総則関連事項」の「教育課程外の学校教育活動と教育課程との関連」の中から抜粋した次の文章について、(A)～(D)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○運動部の活動

運動部の活動は、スポーツに興味と関心をもつ(A)が、スポーツを通して交流したり、より高い水準の技能や記録に挑戦したりする中で、スポーツの楽しさや喜びを味わい、(B)を経験する活動であるとともに、体力の向上や健康の増進にも極めて効果的な活動である。

したがって、生徒が運動部の活動に積極的に参加できるよう配慮することが大切である。また、生徒の能力等に応じた技能や記録の向上を目指すとともに、互いに協力し合って友情を深めるなど好ましい人間関係を育てるよう適切な指導を行う必要がある。さらに、運動部の活動も(C)の一環であることから、生徒の(D)の実現に向けた視点も参考に指導を行うことが大切である。

- ① (A) 同好の生徒 (B) 豊かな学校生活
(C) 学校教育活動 (D) 主体的・対話的で深い学び
- ② (A) 志ある生徒 (B) 社会の厳しさ
(C) 社会教育活動 (D) 将来の目標や進路
- ③ (A) 教師と生徒 (B) 豊かな学校生活
(C) 学校教育活動 (D) 将来の目標や進路
- ④ (A) 教師と生徒 (B) 社会の厳しさ
(C) 社会教育活動 (D) 主体的・対話的で深い学び
- ⑤ (A) 同好の生徒 (B) 豊かな学校生活
(C) 社会教育活動 (D) 将来の目標や進路

2 体育活動中の安全指導に関する次の(11)～(15)の各設問に答えよ。

(11) 「学校体育実技指導資料 第4集 水泳指導の手引き(三訂版)(文部科学省 平成26年3月)」の「第4章 水泳指導と安全」に関する(A)～(E)の各文について、正しいものの組合せを、①～⑨の中から一つ選べ。

- (A) ボディチェックは、二人一組をつくり、互いに相手の安全を確かめさせる方法で、事故防止のみならず、学習効果を高めるための手段としても効果的である。
- (B) 落雷や竜巻等突風、急な大雨の危険性を認識し、事前に天気予報を確認するとともに、天気の急変などの場合には躊躇することなく計画の変更・中断・中止等の適切な措置を講ずることによって、児童生徒等の安全を確保することが大切である。
- (C) 水中での激しい運動の際や水温が高い時などでも、水中では熱中症の危険が少ないため、水分補給は必要ない。
- (D) 低学年や初心者ほど水温に敏感で、一般的に22℃未満ではあまり学習効果は期待できない。そのため、水温は23℃以上であることが望ましく、上級者や高学年であっても22℃以上の水温が適当といえる。
- (E) 水温管理の目安として示した水温は厳守する必要があるが、プールを使用するかどうかについては、対象者の学年、能力、水温、気温、学習内容とは関係なく判断することが大切である。

- ① (A)と(B) ② (A)と(C) ③ (A)と(D)
④ (A)と(E) ⑤ (B)と(C) ⑥ (B)と(D)
⑦ (B)と(E) ⑧ (C)と(D) ⑨ (D)と(E)

(12) 「ゴール等の転倒による事故防止対策について(独立行政法人日本スポーツ振興センター 平成30年3月)」の「ゴール等の転倒による災害の実態」の中の「学校種別/要因別集計表(平成25年度～平成27年度)」について、高等学校における発生件数が最も多かった要因を、①～⑤の中から一つ選べ。

- ① サッカー中に(ゴールに)ぶつかった
② ぶら下がって倒れた
③ 運搬中に落とす、はさむ
④ 風で倒れた
⑤ ネットを踏んで転んだ、ネットに足が絡まって転んだ

- (13) 「熱中症を予防しようー知って防ごう熱中症ー(独立行政法人日本スポーツ振興センター 平成31年3月)」の「熱中症予防運動指針」に関する次の文章について、(A)に当てはまる数字を、①～⑨の中から1つ選べ。

環境条件の評価にはWBGT【湿球黒球温度】が望ましい。WBGTとは、暑さ寒さに関係する気温、湿度、輻射熱、気流の4要素を取り入れた指標である。

WBGT 28℃以上では、熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さに慣れていない人は運動中止とする。

WBGT (A)℃以上では、特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべきである。

- ① 30 ② 31 ③ 32 ④ 33 ⑤ 34
⑥ 35 ⑦ 36 ⑧ 37 ⑨ 38

(14) 「柔道の未来のために(柔道の安全指導) 2020年 第5版(公益財団法人 全日本柔道連盟)」の「柔道事故と対応」から抜粋した次の文章について、(A)～(E)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

○

○

著作権保護の観点により、掲載いたしません。

- ① (A) 大内刈り (B) 寝技 (C) 技能差
(D) 釣り込み腰 (E) 救急隊到着まで安静を保つ
- ② (A) 大外刈り (B) 受け身 (C) 体格差
(D) 内股 (E) 一次救命処置を行う
- ③ (A) 巴投げ (B) 受け身 (C) 体格差
(D) 内股 (E) 救急隊到着まで安静を保つ
- ④ (A) 体落とし (B) 寝技 (C) 技能差
(D) 大腰 (E) 一次救命処置を行う
- ⑤ (A) 大外刈り (B) 受け身 (C) 技能差
(D) 背負い投げ (E) 一次救命処置を行う

- (15) 厚生労働省が示す「新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)」に関する
(A) ~ (E) の各文のうち、正しいものの組合せを、①~⑨の中から一つ選べ。

【令和3年6月25日現在】

(A) 物の表面についたウイルスは時間がたてば壊れてしまうが、物の種類によっては48時間~72時間くらい感染する力をもつと言われている。WHOは、プラスチックの表面では最大48時間、ボール紙では最大72時間生存するとしている。

(B) 手洗いは、たとえ流水だけであったとしても、ウイルスを流すことができるため有効であり、石けんを使った手洗いはコロナウイルスの膜を壊すことができるので更に有効である。手指に付着しているウイルス量は、流水による15秒の手洗いで1/100に、石けんで10秒もみ洗いし流水で15秒すすぐと1/10,000に減らすことができる。

(C) 手洗いができない時は、手指消毒用アルコールも脂肪の膜を壊すことによって感染力を失わせることができる。手指消毒用アルコールがない場合は、次亜塩素酸ナトリウム (いわゆる市販されている家庭用の塩素系漂白剤) を薄めて使用することができる。

(D) 一般的には飛沫感染、接触感染で感染する。閉鎖した空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされている。WHOは、一般に、5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛沫 (約3,000個) が飛ぶと報告している。

(E) マスクは、飛沫を吸い込む側のウイルス吸入量を減少させる効果より、飛沫を出す側からのウイルス拡散を防ぐ効果がより高くなる。飛沫を吸い込む側だけがマスクを着用するより、飛沫を出す側だけがマスクをする方が、より効果が高く、飛沫を出す側と飛沫を吸い込む側の双方がマスクを着用することで、ウイルスの吸い込みを9割以上抑える研究結果がある。また、一般的なマスクでは、その素材によって差はないとされている。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ① (A) と (B) | ② (A) と (C) | ③ (A) と (D) |
| ④ (A) と (E) | ⑤ (B) と (C) | ⑥ (B) と (D) |
| ⑦ (B) と (E) | ⑧ (C) と (D) | ⑨ (D) と (E) |

- 3 科目保健及び科目体育の指導内容に関する次の(16)～(25)の各設問に答えよ。

(16) 次の(A)～(E)は、「生涯を通じる健康」の医薬品の正しい使用法について調べ学習を行った際、生徒が発表した内容である。教師の指導として適切でないものを、①～⑤の中から一つ選べ。

(A) 前もって説明書(添付文書)を読む

- ・正しく使用しないと、効果がなかったり、思わぬ作用に苦しむことになりかねないので、特に使用上の注意はよく読む。

(B) 決められた用法・用量を守る

- ・お茶・牛乳・清涼飲料水で飲んでも、効果が弱くなったりすることはない。
- ・決められた用量以下では効果があらわれず、反対に用量以上では危険なことがある。飲むことを忘れた場合は、次に飲む際、量の調整をする。

(C) 決められた服用時間を守る

- ・「食前」とは食事前の空腹時(食前1時間～30分)に、「食後」は食事の後(食後30分以内)に、「食間」とは食事中に服用することをいう。

(D) 形状を変えずに服用する

- ・医薬品の形状は効果・吸収・副作用などを考えてつくられるので、これを無視して服用すると、効果が低下したり、害になったりすることがある。

(E) 併用を避ける

- ・医薬品の併用は、同じ成分が重なって作用するなど、有害なことがあるので、複数の医療機関から処方されているときは、受付の医療事務に相談する。

- ① (B)について、お茶・牛乳・清涼飲料水で飲むと、医薬品の成分によっては化学反応を起こしたり、効果が弱くなることがあると指摘した。
- ② (B)について、飲むことを忘れても、勝手な判断で量の調整をせず、飲むことや、飲んだことを忘れない工夫が大切であると指摘した。
- ③ (C)について、「食間」は食事と食事の間(食後約2時間)のことをいうと指摘した。
- ④ (D)について、医薬品の形状は、医薬品の成分による苦味などに配慮して作られているので、効果・吸収・副作用とは無関係であると指摘した。
- ⑤ (E)について、複数の医療機関から処方されているときは、薬剤師などに相談するとよいと指摘した。

(17) 「現代社会と健康」の「感染症とその予防」に関する(A)～(E)の各文について、誤っているものを①～⑤の中から一つ選べ。

- (A) 細菌やウイルスなどの病原体がほかの人や動物などからその人の体のなかに入り、それが体内で増えることで起こる病気を感染症という。潜伏期間を経て発病する場合もあるが、基本的に感染した場合は必ず発病する。
- (B) エイズや重症急性呼吸器症候群(SARS)などのように、新たに注目されるようになった感染症は新興感染症と呼ばれており、人間がまだ免疫をもっていないために大流行を起こす危険性が高く、また、診断や治療の方法が確立していないために適切な医療行為が困難である。
- (C) 結核、マラリアなどのように、その発生が一時期は減少し、あまり問題とはみられない程度になっていたものが、再び増加し注目されるようになったものは再興感染症と呼ばれている。
- (D) 抗生物質を過剰、もしくは不適切に使用したり、定期的に服薬しなかったり、自己判断で服薬をやめたりすることによって出現を助長したといわれている薬剤耐性菌は、従来の抗生物質が効きにくいいため、感染し発病した場合の症状は重く、場合によっては命を落とすこともある。
- (E) 非自己の物質や生物が体内に侵入したときにそれを排除するしくみを免疫といい、もともと体にそなわっている先天的なものと、たとえば麻疹・風疹にかかることで2度とかかからなくなるというように後天的に獲得するものがある。予防接種は、この後天的な免疫のしくみを利用したものである。

① (A) ② (B) ③ (C) ④ (D) ⑤ (E)

(18) 次の(A)～(E)は、科目保健で学習する用語とその意味について説明したものである。正しいものの組合せを、①～⑨の中から一つ選べ。

(A) グローバルデザイン

障がいの有無や年齢・性別・国籍にかかわらず、初めから誰もが使いやすいように施設や製品、環境などをデザインするという考え方。

(B) セルフエスティーム

健康や自分自身をどれだけ大切に考えているか。自尊感情。自己肯定感。

(C) ヘルスプロモーション

WHO(世界保健機関)がオタワ憲章(1986年)の中で提唱した概念で、人々が自らの健康をコントロールし、改善できるようにするプロセス。

(D) インフォームド・コンセント

医師は患者にわかりやすく選択肢をあげて説明し、患者が自主的に判断して受けたと思う医療を安心して受けられるようにするべきであるという考え方。

(E) 8020運動

国などにより、「満80歳で1日20分以上の運動をしよう」という活動。

- | | |
|---------------|---------------|
| ① (A)と(B)と(C) | ② (A)と(B)と(D) |
| ③ (A)と(B)と(E) | ④ (A)と(C)と(D) |
| ⑤ (A)と(C)と(E) | ⑥ (A)と(D)と(E) |
| ⑦ (B)と(C)と(D) | ⑧ (B)と(C)と(E) |
| ⑨ (B)と(D)と(E) | |

(19) 次の文章は、領域「体づくり運動」の指導に当たり、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」の「保健体育」を確認した内容の一部である。（A），（B）に当てはまる正しい語句の組合せを，①～⑤の中から一つ選べ。

次の運動を通して，体を動かす楽しさや心地よさを味わい，体づくり運動の行い方，体力の構成要素，実生活への取り入れ方などを理解するとともに，自己の体力や生活に応じた継続的な運動の計画を立て，実生活に役立てること。

ア（A）では，手軽な運動を行い，心と体は互いに影響し変化することや心身の状態に気付き，仲間と主体的に関わり合うこと。

イ（B）では，自己のねらいに応じて，健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための継続的な運動の計画を立て取り組むこと。

- | | | |
|---|----------------|-----------------|
| ① | （A）多様な動きをつくる運動 | （B）体力を高める運動の計画 |
| ② | （A）体ほぐしの運動 | （B）実生活に生かす運動の計画 |
| ③ | （A）実生活に生かす運動 | （B）体力を高める運動の計画 |
| ④ | （A）体ほぐしの運動 | （B）体力を高める運動の計画 |
| ⑤ | （A）多様な動きをつくる運動 | （B）実生活に生かす運動の計画 |

(20) 次の文章は、領域「陸上競技」の指導に当たり、3年間を見通した指導計画を作成する際、「技能」における「長距離走」の指導内容について、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」を確認した内容の一部である。次の(A)～(C)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

[入学年次]では、(A)して、一定の距離を走り通し、タイムを短縮したり、競走したりできるようにする。

(A)して走るとは、目標タイムを達成するペース配分を自己の体力や技能の程度に合わせて設定し、そのペースに応じたスピードを維持して走ることである。

指導に際しては、走る距離は、(B) m程度を目安とするが、生徒の体力や技能の程度や気候等の状況に応じて弾力的に扱うようにする。

[入学年次の次の年次以降]では、(C)して走することをねらいとしている。

(C)して走るとは、自らペース変化のあるペースを設定して走ったり、仲間のペースの変化に応じて走ったりすることである。

指導に際しては、タイムを短縮したり、競走したりする長距離走の特性や魅力を深く味わえるよう、長距離走特有の技能を身に付けることに取り組みさせることが大切である。

- | | | |
|---|------------------|-----------------|
| ① | (A) ペースの変化に対応 | (B) 3,000～5,000 |
| | (C) 自己に適したペースを維持 | |
| ② | (A) 自己に適した呼吸を維持 | (B) 3,000～5,000 |
| | (C) 呼吸の変化に対応 | |
| ③ | (A) 仲間と同じペースを維持 | (B) 1,000～3,000 |
| | (C) リズミカルなペースに対応 | |
| ④ | (A) 自己に適した呼吸を維持 | (B) 1,000～3,000 |
| | (C) 呼吸の変化に対応 | |
| ⑤ | (A) 自己に適したペースを維持 | (B) 1,000～3,000 |
| | (C) ペースの変化に対応 | |

(21) 次の文章は、領域「球技」の中の「サッカー」の指導に当たり、入学年次における「技能」の指導内容について、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説保健体育編」を確認した内容の一部である。次の(A)～(D)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

入学年次では、(A)したボール操作と(B)を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への(C)などから攻防を展開できるようにする。

ゴール前への(C)などから攻防をするとは、仲間と連携してゴール前の(B)を使ったり、ゴール前の(B)を作りだしたりして攻防を展開するといったゲームの様相を示したものである。

(A)したボール操作とは、ゴールの枠内にコントロールしてシュートを打ったり、味方が操作しやすいパスを送ったり、相手から奪われず次のプレイがしやすいようにボールを(D)したりすることである。

- | | | | | |
|---|--------|--------|------------|----------|
| ① | (A) 卓越 | (B) 空間 | (C) ロングボール | (D) キープ |
| ② | (A) 安定 | (B) 空間 | (C) 侵入 | (D) ドリブル |
| ③ | (A) 卓越 | (B) 場所 | (C) 侵入 | (D) ドリブル |
| ④ | (A) 安定 | (B) 空間 | (C) 侵入 | (D) キープ |
| ⑤ | (A) 安定 | (B) 場所 | (C) ロングボール | (D) ドリブル |

(22) 次の(A)～(D)は、領域「武道」の指導に当たり、「武道と日本生まれのスポーツ」について説明した内容である。誤っているものの組合せを、①～⑥の中から一つ選べ。

(A) 「武道」は日本生まれの国際スポーツの代表である。「武道」は、柔道、剣道、相撲、なぎなた、弓道などを総称する言葉である。

(B) 江戸時代の武術は、戦場殺傷術ながら、禅的な心の修養をともなって稽古された。武道は、それらが近代化するなかから生まれた。その中で、最初に国際化したのは相撲であった。

(C) 1951年に国際柔道連盟が設立されると、1960年の第17回オリンピック東京大会で柔道が正式種目となった。これに続いて剣道が1970年、弓道が2007年に国際組織を結成した。

(D) 武道のほかに日本で生まれたスポーツとして、ソフトテニス、駅伝、競輪がある。

- ① (A) と (B) ② (A) と (C) ③ (A) と (D)
 ④ (B) と (C) ⑤ (B) と (D) ⑥ (C) と (D)

(23) 次のメモは、領域「武道」の「剣道」の指導に当たって、3年間を通した「技能」の指導内容を検討する際、高等学校で身に付ける技について、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」に基づいてまとめたものである。(A)～(D)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

<メモ>

しかけ技

- | | | |
|----------|-----|--------------|
| ・ (A) の技 | 主な技 | 面一面，小手一胴 |
| ・ 引き技 | 主な技 | 引き面，引き小手 |
| ・ (B) 技 | 主な技 | (B) 面，(B) 小手 |
| ・ 払い技 | 主な技 | 払い面，払い小手 |

(C) 技

- | | | |
|----------|-----|----------------|
| ・ (D) 技 | 主な技 | 小手(D) 面 |
| ・ すり上げ技 | 主な技 | 小手すり上げ面，面すり上げ面 |
| ・ 返し技 | 主な技 | 面返し胴 |
| ・ 打ち落とし技 | 主な技 | 胴打ち落とし面 |

- ① (A) 二段 (B) 出ばな (C) 抑え (D) 押し
 ② (A) 連続 (B) まわし (C) 応じ (D) 押し
 ③ (A) 二段 (B) まわし (C) 抑え (D) 抜き
 ④ (A) 連続 (B) まわし (C) 抑え (D) 抜き
 ⑤ (A) 二段 (B) 出ばな (C) 応じ (D) 抜き

(24) 次の文章は、領域「ダンス」の指導に当たり、単元計画を作成する際、「高等学校学習指導要領（平成30年告示）」の「第6節 保健体育」に基づいて、「知識及び技能」の目標について確認した内容の一部である。次の(A)～(C)に当てはまる正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

(A) ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、個や群で、対極の動きや空間の使い方で変化を付けて(B)に表現したり、イメージを強調した作品にまとめたりして踊ること。

現代的な(C)のダンスでは、(C)の特徴を強調して全身で自由に踊ったり、変化とまとまりを付けて仲間と対応したりして踊ること。

- | | | | |
|---|----------|---------|---------|
| ① | (A) 創作 | (B) 即興的 | (C) リズム |
| ② | (A) 創作 | (B) 流動的 | (C) 音楽 |
| ③ | (A) フォーク | (B) 持続的 | (C) リズム |
| ④ | (A) 創作 | (B) 流動的 | (C) リズム |
| ⑤ | (A) フォーク | (B) 即興的 | (C) 音楽 |

(25) 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」における「保健体育科の目標及び内容」の「体育理論」の「運動やスポーツの効果的な学習の仕方」の中の「運動やスポーツの技能の上達過程にみる3つの段階」について、(A)～(C)に当てはまる各段階の名称として正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

技能の上達過程にみる3つの段階

(A) の段階・・・意識してもなかなかうまくいかない

↓ (たまにうまくいく)

(B) の段階・・・意識しながらできる

↓

(C) の段階・・・意識しなくてもひとりでできる

- ① (A) 悪戦苦闘 (B) 突発的な調整 (C) 潜在化
② (A) 試行錯誤 (B) 恣意的な成功 (C) 表面化
③ (A) 悪戦苦闘 (B) 突発的な挑戦 (C) 表面化
④ (A) 試行錯誤 (B) 意図的な成功 (C) 潜在化
⑤ (A) 試行錯誤 (B) 意図的な調整 (C) 自動化

4 次の(26)～(30)の各設問に答えよ。

(26) 各種目の「競技施設(コートの規格)」に関する次の(A)～(D)の各文について、正しいものの組合せを、①～⑥の中から一つ選べ。

(A) バドミントンのシングルスコートは縦13.4m、横5.18m、ダブルスコートは縦11.88m、横6.1mと定められており、全てのラインは規定の範囲内に含まれる。

(B) テニスのシングルスコートは縦23.77m、横8.23m、ダブルスコートは縦23.77m、横10.97mと定められており、寸法はすべてラインの外側から測る。

(C) 卓球台の国際規格は、縦274cm、横152.5cm、高さ66cmと定められている。

(D) バレーボールの6人制コートは、縦18m、横9mと定められており、境界線はコート内に含まれる。

- ① (A)と(B) ② (A)と(C) ③ (A)と(D)
④ (B)と(C) ⑤ (B)と(D) ⑥ (C)と(D)

(27) 各種目の「試合時間」に関する次の各文について、(A)～(E)に入る数字の組合せとして、最も適切なものを、①～⑥の中から一つ選べ。

○バスケットボール

ゲームは各(A)分間の4クォーターからなる。インターバルは第1クォーターと第2クォーター(前半)の間、第3クォーターと第4クォーター(後半)の間、及び各オーバータイムの間にそれぞれ(B)分間とし、ハーフタイムのインターバルは(C)分間とする(国内大会のハーフタイムのインターバルは(A)分間を推奨する)。

○ハンドボール

成年・高校生の競技時間はすべて、前後半各(D)分を標準とする。休憩時間は(A)分を標準とする。

○サッカー

試合は、前半、後半共に45分間行われる。プレーの開始前に主審と両チームが合意した場合に限りプレー時間の長さを短縮することができ、それは競技規則に従ったものでなければならない。競技者には、ハーフタイムのインターバルを取る権利があり、それは(C)分間を超えないものとする。

○ホッケー

試合は、各(C)分間の4クォーターで構成される。第1クォーターと第2クォーター、及び第3クォーターと第4クォーターの間に(B)分間の休憩時間を設ける。そして、第2クォーターと第3クォーターの間には(E)分間のハーフタイム(休憩時間)を設ける。

- | | | | | | |
|---|--------|-------|--------|--------|--------|
| ① | (A) 20 | (B) 5 | (C) 15 | (D) 40 | (E) 10 |
| ② | (A) 15 | (B) 3 | (C) 10 | (D) 40 | (E) 5 |
| ③ | (A) 10 | (B) 2 | (C) 15 | (D) 30 | (E) 5 |
| ④ | (A) 15 | (B) 2 | (C) 20 | (D) 35 | (E) 10 |
| ⑤ | (A) 10 | (B) 3 | (C) 20 | (D) 35 | (E) 15 |
| ⑥ | (A) 20 | (B) 5 | (C) 10 | (D) 30 | (E) 15 |

(28) 「テニスのグリップの理解」について説明した次の文について、(A)～(C)に入るグリップの名称として正しい語句の組合せを、①～⑤の中から一つ選べ。

(A) グリップ

上向きのスイングでトップスピン系(順回転)のボールを打つときに用いる。

(B) グリップ

やや上向きのスイングで回転数の少ない順回転のボールを打つときや、フラット系(あまり回転しないボール)、あるいはスライス系(逆回転)のボールを打つときに用いる。

(C) グリップ

当てて返すだけのグランドストロークやスライス系(逆回転)のボールを打つときに用いる。また、サービス、ボレー、スマッシュにも適している。

- ① (A) コンチネンタル (B) イースタン (C) ウェスタン
 ② (A) イースタン (B) ウェスタン (C) コンチネンタル
 ③ (A) ウェスタン (B) コンチネンタル (C) イースタン
 ④ (A) コンチネンタル (B) ウェスタン (C) イースタン
 ⑤ (A) ウェスタン (B) イースタン (C) コンチネンタル

(29) 各種目に関する用語について、(A)～(D)に入る語句や数字の組合せとして最も適切なものを、①～⑤の中から一つ選べ。

- 陸上競技の競走競技において、走っているときの歩幅を(A)という。
 ○陸上競技の「走り高跳び」の跳び方のうち、バーの上で上体を反らせるクリアーの姿勢をとった後、腹側に体を曲げて、背中でマットに着地することを(B)という。
 ○水泳中に、体の中心線を軸として、左右に横ゆれする動きを(C)という。
 ○水泳において、バタフライのキックとして用い、両脚を同時に上下に動かして水をけり出す方法を(D)キックという。

- ① (A) ストライド (B) 背面跳び
 (C) ローリング (D) ドルフィン
 ② (A) ピッチ (B) ベリーロール
 (C) ストローク (D) ウエッジ
 ③ (A) ストライド (B) はさみ跳び
 (C) ストリーム (D) ドルフィン
 ④ (A) ピッチ (B) 背面跳び
 (C) ローリング (D) ドルフィン
 ⑤ (A) ストライド (B) ベリーロール
 (C) ストリーム (D) ウエッジ

(30) 今夏、わが国では「第32回オリンピック競技大会(2020/東京)」の開催が予定されているが、国民から親しみをもって応援してもらえるよう、多くの競技団体が日本代表の愛称を付けている。中央競技団体が定めている愛称に関する次の(A)～(E)の各文について、正しいものの組合せを、①～⑨の中から一つ選べ。

- (A) バレーボール日本代表の愛称は、男子が「龍神 JAPAN」、女子が「火の球 JAPAN」である。
- (B) ハンドボール日本代表の愛称は、男子が「ひこぼし JAPAN」、女子が「おりひめ JAPAN」である。
- (C) サッカー日本代表の愛称は、男子が「SAMURAI BLUE (サムライブルー)」、女子が「NADESHIKO JAPAN (なでしこジャパン)」である。
- (D) バスケットボール日本代表の愛称は、男女ともに「AKATSUKI SIX (アカツキシックス)」である。
- (E) 競泳日本代表の愛称は、「トビウオジャパン」である。

- | | | |
|-------------|-------------|-------------|
| ① (A) と (B) | ② (A) と (C) | ③ (A) と (D) |
| ④ (A) と (E) | ⑤ (B) と (C) | ⑥ (B) と (E) |
| ⑦ (C) と (D) | ⑧ (C) と (E) | ⑨ (D) と (E) |

令和4年度採用 岐阜県公立学校教員採用選考試験
第1次選考試験 高等学校 保健体育

問題番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
正解	3	1	5	2	1	4	2	5	3	1

問題番号	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
正解	6	3	2	2	6	4	1	7	2	5

問題番号	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
正解	4	4	5	1	5	5	正解なし	5	1	8

※問題27は正解がないため、全員正解とする

